



建築家通信

こぞ今年 貫く棒のごときもの

川上 恵一



冬のセミナー



地域材フィールドワークin中信



まちなみウォッチング・須坂



柳澤孝彦氏講演会

正岡子規の弟子、高浜虚子の句である。私たちのJIA長野県クラブは本会の創立と同時に発足し今年で27年目となる。建築設計専門人の集まりで、「社会貢献と倫理観に基づいた美しい建築を創造する」という仲間たちの会も四半世紀を越えた。当初の先人たちの高い理念に共感した私たちは、それを受け継ぎ発展させようと昨年は公益社団法人日本建築家協会の一員として活動を開始した。

高い理念は時として大きくのしかかり押しつぶされそうにもなるが、仲間に加わった以上は使命として受け止めている。とはいえ私のように大風呂敷を掲げ、いい建築を造り社会貢献を目指そうなどという「正義」の旗振り役が、日頃実務に追われているだけでは説得力もない。

思い起こせば二年前、独断と偏見の「御輿」を仲間たちは担いでくれた。時間を割いて知恵と汗と金を出してくれた。間近に迫る保存問題諏訪大会の準備、県産材の積極活用の働きかけや下働き、我々の深い理念を発信する出版行為の是非の解決。また毎年開催する学生への応援や市民への認知を働きかける建築祭の段取り、仲間同士の連帯意識高揚の仕掛けなど、それらのためのさまざまな委員会やまとめなどの努力には感謝以外の何ものでもない。

ところで昨今の設計業務はやけに時間がかかるようになった。情報氾濫の時代のためか施主が数値的情報を求め、我々はそのための資料や根拠の提出は勿論、工務店やハウスメーカー等と比較され見合わされるジレンマ。意欲や力のある仲間同士を比較して、やる気をなくさせるコン

ペなども…。よりよき建築空間を創るための自己研鑽は望むところであるが、同時に不必要と思われる研修も増大した。たとえば耐



震、省エネ、安全安心、トラブル対応などの講習会はそれを受けなくては仕事が取れないと煽られる。いやはや、やりにくくなった。昔のように施主と設計者との直感での信頼関係が出来にくくなったのだと思う。過去の蜜月を懐かしがる前にこのままだと後に続く者がいなくなるのではと危ぶまれる。この現象は単に建築設計の問題ではなく、少子高齢化や技術という物理的問題と並行して、メンタル面での、教師も医者も公務員も民間もすべてが責任回避の「縮小の時代」を象徴している。

そんな中でのJIAの「強制労働」には手を焼いたと思う。いわば慈善活動、無収入で時間をとられ、社会貢献という難問に立ち向かってくれた。愚痴の一つも言わず本当に良くやってくれた。まだまだの感もあるが、それでも我がJIA長野県クラブの頼もしい仲間はこの道を行くしかないのではと思う。

海援隊の歌が聞こえてくる。「信じられぬと嘆くよりも人を信じて泣くほうがいい…」と。混乱と停滞とも取れる時代に、開き直りとも言える自分の信じた道を貫くのもいいのかもしれない。「贈る言葉」と虚子の句が前に向かわせてくれている新年の始まりである。

2013年のJIA建築家大会は北海道で開催されました。メインとなる会場は「札幌駅前通路地下歩行空間 チ・カ・ホ」です。この会場、これまでの建築家大会のような建物ではなく、まさに「通路」の一部でした。さまざまなプレゼンテーションが行われている背後には通勤・通学、また買い物などに一般の人たちが行きかっているという、ある意味これまでで最も開かれた大会となっていました。特に「5000人の建築家展」や「模型展」「全国学生卒業設計コンクール」などの展示は一般の人に建築家の活動を広く知ってもらい良い機会になったのではないかと思います。

私は以前に参加させていただいた「JIAリフレッシュセミナー」参加メンバーによるプレゼンテーション「リフレッシュセミナーREUNION」に2009年のプレゼンターの一人として参加させていただきました。2009年のセミ

ナーの際に、その頃始めたばかりだった善光寺門前の活動を取り上げたプレゼンテーションをしたのですが、その現在の様子をスライドで紹介させていただきました。他のメンバーたちの現在の取り組みもそれぞれとても興味深く、それぞれの地元で皆、地に足の付いた活動をされていること、とても刺激になりました。

翌日はずっと行きたかったイサム・ノグチの「モエレ沼公園」を体験することもかない、充実した時間を過ごすことができました。



リフレッシュセミナーREUNIONの様子

柳澤孝彦氏の講演会に参加して

『風土と建築』～上田市交流文化施設によせて～と題して、建築家・柳澤孝彦氏の講演会が10月26日に上田市で開催されました(担当:会員委員会)。会場には1/50の巨大な模型を展示。冒頭でいきなり「宣言をします。」「最高の建築をつくる。そして経済的価値では計れない価値を見出す。」

その後現在工事中の建築の設計や施工のプロセスが紹介されました。上田の歴史・自然・文化を背景に、高さをおさえ大地に根ざした環境デザイン、そして直径70mの円形プロムナードによる長い動線の意図することなど興味深いお話が続ききました。

いくつかのキーワードが気になりメモをとってありましたので転記します。「建物100%、外構100%、計200%」これではじめていい環境になる。「平面は足の裏」平面に機能をバランスさせようまくいけば立ち上がりはスムーズにいく。「ランダム性の役割は大きい」音・ファッション・髪型にも通じ

る考え方である。「公共のマナーは必要」文化施設はそこで空間や伝統を感じながら学ぶ場でもありたい。「建築は人々の背景」だから抑制をきかせてデザインをする。「1/50の模型は自分が入り込める」

その後、同会場で景観シンポジウム(担当:まちづくり委員会)。市民や学生からも前向きな意見や質問が寄せられました。建築家としての思想的な話が多く、その具体的な表現としての設計手法が紹介された講演でした。日頃モヤモヤしていた想いが晴れたような気持ちになり帰りのクルマを走らせました。



柳澤孝彦氏(右から二人目)による模型を用いた説明

第5回 地域材フィールドワークin中信

地域材フィールドワークは長野県内の山に赴き、山側の人々と交流することで実際に私たちが日々の業務の中で、地域材をより使いやすくする事が一つの目的です。

今回は9月13日に、安曇野市の松くい虫の被害状況を実際に目で見て、何ができるかを考えてゆこうということで、市の林務課の案内で明科地域の更新伐事業による皆伐で出た貯木場を見学したのち、実際の赤松の使用例を天平の森と征矢野建材さんの塩尻プレーリーファクトリーで見学しました。

安曇野の風景が松くい虫被害で茶色く枯れていくのを目の当たりにし、

一部の地域(3ha分)の皆伐だけで出た1600㎡の貯木を見て圧倒されました。更新伐は被害木を含めて一旦山を丸刈りにして被害にあいにくい樹種に替えてゆくというもので、健全木も混ざっています。どうやって安曇野産の赤松を流通させていくことができるか、意見交換会で真剣に話し合いました。

設計者が地域材を使うんだという心意気を持てば、状況は変化してゆく。地域材の家造りの魅力を形として社会に伝えてゆくことができるのは設計者の力です、という委員長の話が印象的でした。



明科の貯木場



天平の森



貯木場のブルーステインの出た赤松



征矢野建材の赤松のフローリング

地域材フィールドワーク(南信地域木造実例見学会)

川上から川下へ。第6回地域材フィールドワークは平成25年11月15日生憎の雨の降る南信で行われた。今回は川下。地域材の活用を実践している北沢建築さんの社屋と加工場の見学から始まった。モデルルームも兼ねた社屋は県産材率96%。柱に木曽檜、梁は南信濃遠山杉、外壁は杉板張りと塗り壁。床は信州カラマツ合板を下地に、1階はブナ2階はカラマツ。天井は遠山杉。地域材を丁寧に使い造られた空間は品のある居心地の良さを醸し出している。大断面を使わず細い線で描かれた大空間の加工場は、木材の新しい構造方法を表す。北沢建築さんの意欲溢れる素晴らしい建築でした。

満蒙開拓の歴史を伝える記念館。昭和7年日本は国是として「五族協和」を掲げ満州国を実効支配。開拓団として全国から約27万人を送り込んだ。長野県からが最も多く約33,000人を数え、飯田・下伊那地方から約8,400人が大陸へ渡った。その背景は当時貧困疲弊状態にあった農村の新たな活路を見出す為であった。終戦時の開拓団集団自決、悲惨な逃避行は負の歴史として今を生きる我々が引き継がなければならない。記念館は大屋根を支える根羽杉丸太立柱16本が力強くそそり立ち越屋根からは淡い光が差し込む。壮絶な満蒙開拓語り継ぎ資料の展示と、空間構

成との対比が印象的でした。

近山から産出された木材による建築。それは経済力の発展を促し他にはない地域特有な魅力が生まれる。地域の建築家は歴史的背景、地域の特色を理解し活動するべきである。とより強く感じました。



満蒙開拓記念館



KOA社屋・七久里の社



北沢建築社屋

まちづくり委員会による「まちなみウォッチングin蔵のまち・須坂」が去る11月23日に開催されました。当日須坂の街をご案内いただいた「須坂景観づくりの会」理事長の小林義則さんに「黒壁プロジェクト」等のユニークな活動についてご紹介いただきます。

須坂景観づくりの会は、須坂市内の景観づくり事業を通じての須坂市の活性化と郷土愛の育成を目的に2012年に発足しました。

明治初期から昭和初期にかけて繭から生糸を紡ぐ製糸業によって栄えた須坂市には、現在も町の至るところで当時の面影を見ることができ、製糸業によって巨額の富を得た豪商が建造した蔵づくりの建物が歴史的建造物として多く残されています。

しかし近年、須坂市でも商店街の空洞化と人口の減少により、須坂の町は元気を無くしつつあります。町の衰退と共に個人商店も衰退をしていきます。これ以上衰退をしないために、どうにかしなければならなかったとき、須坂ならではの歴史的建物を活かした知名度の向上と観光客誘致を考えました。

まず、我々は歴史的建物を結ぶ小路に目をつけ、小路の景観を整える事業を企画しました。それが「須坂黒壁プロジェクト」です。

須坂黒壁プロジェクトでは、今はブロック塀などにより色もデザインもバラバラの家並みが続いている小路の両側を板塀や格子戸などによって統一した景観にしています。塀だけではなく壁への色塗りや格子の設置なども行うことから「黒壁プロジェクト」と名前を付けました。

2年間の活動でおよそ100mの黒壁が作られました。

安全上の理由からプロの大工に設置施工を依頼しますが、仕上げ作業である板塀への色塗りは地元住民と子供たちの手によって行います。自分たちの手で町並みを作ることで、町への愛着

と誇りを生み、そして郷土愛へとつなげようと考えたからです。

自宅ではハケを使ったペンキ塗りを行わなくなった現代、色塗り作業に参加した子供は、その場所を通る度に「ここは俺が塗った場所だ」と誇らしげに言うそうです。参加した大人たちも「貴重な経験となった。須坂の魅力を再認識できた。これからは友人、家族にも紹介したい」と言ってくれます。

たった100mの黒壁づくりですが、確実に地元に愛される町並みになりつつあると感じています。

須坂市は小さな町や村が合併を繰り返してきた歴史があります。その歴史的背景から中心市街地といわれる旧須坂町以外の地域にも素晴らしい歴史と文化そして景観があります。それらは地元住民にとっては当たり前のものですが、周囲から見たら宝とも思える文化財や町並みなのです。

須坂景観づくりの会では、旧須坂町だけではなく須坂市全域の魅力を再発見し、より多くの方々にそれらを知っていただけるように事業を進めていこうと考えています。

市の発展や町並みの保存を望む心は郷土愛の精神があって初めて芽生えます。

我々は須坂市内の景観づくり事業を通じて、須坂を愛し、須坂を大切に想う住民がより多く現れてくれることを願います。

「須坂景観づくりの会」理事長 小林義則



板塀の施工



会員・地元住民による黒壁塗り



完成後みんなで記念撮影

冬のセミナー報告

勝山 敏雄

今年度の冬のセミナーは、第一部：「保存問題長野大会に向けて」 第二部：「地域材活性化委員会より中間報告」 第三部：「賛助会のわが社の自慢話」の3部にわたって行われました。

今年度の第23回保存問題大会－長野大会－は、岡谷・諏訪で開催されます。テーマは『保存は未来への創造である。～近代産業の衰退の影響と保存建築物の活用～』。戦後の生糸産業の発展とともに建設された建築物を保存することの意味を掘り下げ、次世代の創造に役立てていくとともに、残すべき建築物をどのように活用していくかを探っていきます。スケジュールは、2月15日(土) I. 岡谷市周辺の近代化遺産視察(丸山タンク～株式会社金上蘭倉庫～旧山一林組製糸事務所・守衛所) II. 諏訪市周辺の近代化遺産資産(旧林家住宅～片倉館)。2月16日(日) I. 岡谷市内の近代化遺産見学(旧片倉組事務所～初代片倉兼太郎生家～旧岡谷市役所庁舎) II. シンポジウム(①基調講演：藤森照信(建築史家・建築家) ②パネルディスカッション：「保存は未来への創造である」会場：岡谷市カノラホール)となっています。JIA長野県クラブでは特別委員会を設立し、県内各地の残したい建物を長野県クラブ会員で調査し、準備を進めてきました。多くの方にご参加いただきたいと思います。

第二部：「地域材活性化委員会より中間報告」では、委員長より各エリ

アで開催したフィールドワークの報告がありました。フィールドワークによって各地域の山の現状を再確認すると共に、地域材の良さを再認識し、より多くの地域材を活用していくことなど、今年度の活動をさらに活発にしていきたいものです。

第三部：「賛助会のわが社の自慢話」では、ガラスの加工メーカーの「フィグラ」、薪ストーブ販売の「ヤマショー」、県産材の「販路開拓協議会」、「根羽村森林組合」の各社の製品の紹介等の話をしていただき、その後、賛助会各社の自慢話をしていただき、長野県クラブ会員と賛助会の皆さんとの交流を深めました。



冬のセミナーの様子



幹事会の様子

賛助会だより

「真の技術者」の育成を通じ、建設業界に貢献する 株式会社 総合資格 長野営業所(学校名 総合資格学院 長野校)所長 高田 武弘

弊社では全国各地で1級、2級建築士・施工管理技士・宅建といった建築・不動産関連資格の取得を支援する「スクール事業」を中核に、企業、学校、建築関連団体へのサポート事業など、さまざまな角度から、日本の建築業界の発展に寄与しております。昨年4月に長野県に本店を出店させて頂き、1年半というまだ短い期間ではありますが、多くの合格者を輩出させていただきました。

ここ数年間で人々は、天災等による被害により建築物に対してより一層高い信頼性を求めるようになりました。同時に建築士においても、様々な面でより高い知的水準が必要となっています。そのような世相のなか、1級建築士資格試験の合格者の約半数以上を占めているのが総合資格学院です。

また今現在、多くの企業で抱えている問題点のひとつに技術者の確保と育成は、建築・不動産業界でも大きなテーマです。特に「団塊の世代」の大量退職が始まった今、次の技術者の確保は、企業の存続にも関わる深刻な問題です。弊社は、建設業界全体の繁栄を支援するために、企業のニーズに合わせた「次代を担う有資格者育成プラン」を数多く提案しております。時代が、人が、より優れた建築技術者の登場を待ち望んでいます。今後も弊社は、合格率の高さを維持しながら、豊かな人格を兼ね備えた建築技術者の輩出に寄与

して参ります。

当学院受講生の一人ひとりが建築に対して大きな誇りと夢を抱いています。その想いに応えるために、大学教授や大手設計事務所、ゼネコンなどで活躍する業界の最新動向に詳しいプロが講師を務め、レベルの高いまた実務で使えるわかりやすい講義を提供しています。人は一生のほとんどを建築空間の中で過ごします。だからこそ私たちは合格率を追求するだけでなく、高い倫理観を備えた建築技術者の育成に取り組んでおります。そして、その教育活動を通して、企業の発展と快適で安心・安全な社会に貢献していくことが弊社の使命であると考えております。

弊社は現在、「スクールビジネス」において1級建築士の輩出No1の地位を築くことが出来ましたが、まだまだそこに満足してはおりません。1級建築士輩出に関してはNo1に甘んじることなく、合格者の8割を弊社から輩出することを目標に講座や教材のさらなる開発に取り組む所存でございます。新規事業として数年前から開始した「出版事業」「法定講習事業」もライセンススクール並みの事業の柱とすべく積極的に拡大を図り、より多くの方々へ貢献できる様事業を行なって参ります。

〒380-0822 長野県長野市南千歳878-5 グランヴィル南千歳7F TEL:026-268-0811 FAX:026-268-1181

構造物を『化学』の力で環境に優しく安全を追求する防水メーカー 株式会社 ダイフレックス新潟営業所 阿部 譲

私たちダイフレックスはこれまでウレタン防水のトップメーカーとして土木構造物・建築分野において大きな実績を重ね、技術の革新に貢献してまいりました。これまで国内の仕上げ材分野では供給するメーカーの多くは塗料・防水材・土木などの領域で区別されてきました。しかし年々増加する改修工事を中心に屋上防水・外壁塗装などトータルで責任をもって欲しいとの要望が強まり、ダイフレックスではこうした現状や業界の動きをいち早くキャッチし、塗材メーカー

である恒和化学工業㈱をグループ企業から統合、さらにはSika社(本社:スイス)と資本及び業務提携いたしました。これにより建物をトータルして改修提案ができ、またSika社との相互技術開発により土木製品についても今まで以上に充実した工法や商品がご提供出来るようになりました。今後も快適で、機能的、安全な空間環境を維持し、建物の資産価値を高めるためのご提案をしてまいりますので、今後とも宜しくお願い致します。

〒950-0912 新潟県新潟市中央区南笹口1-2-16 新潟CDビル3F TEL:025-365-3010

エネルギーを有効利用し、快適な暖房環境を提供 **新入会員** サーマエンジニアリング株式会社 営業課長 小林 健吾

弊社の製品「サーマ・スラブ」は、夜間の電気エネルギーを熱エネルギーに変えて地中に貯める! 地中熱利用の蓄熱暖房システムです。夜間電力のみを使用し昼間電力を減らすことで、昼夜間の電力負荷平準化と節電で社会に貢献することが出来ます。

低温・大容量の蓄熱層から繰り出す放熱は24時間ほぼ一定で、低温輻射であることで過度な乾燥を防ぎ、人にも建物にもとても優

しい暖房です。大きな蓄熱は備蓄ともなり、災害時には3~5日程度は寒さから身を守ります。

更に地中に採熱管を埋設し通してやることで、換気として外から入る空気を暖めてやり、熱ロスを無くすることが出来ます。

「サーマ・スラブ」で地球環境にやさしく、快適で価値観の高い建物づくりに貢献していきたいと思っております。

〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内 3-2-29 TEL:052-955-1455 FAX:052-971-1398

第14回JIA環境建築賞 優秀賞を(有)みず*設計 代表 松下重雄さんが受賞されました。おめでとうございます!

古材使いまわしによる「古さこそモダンな家・K邸」

松下 重雄 さん (有)みず*設計

平成25年度 日事連建築賞 奨励賞を新井 優さんが受賞されました。おめでとうございます!

A House
『根羽杉でつくる三世代住宅・うちそとをつなぐエコハウス』

新井 優 さん 新井建築工房+設計同人NEXT

開催したイベント

- 10月26日(土)・・・柳澤孝彦氏講演会
- 11月15日(金)・・・第6回地域材フィールドワーク(地域材でつくる建築の視察勉強会)
- 11月23日(土)・・・まち並みウォッチング「蔵のまち・須坂を歩く」
- 12月3日(火)・・・地域材フィールドワーク特別企画(安曇野産赤松製材見学会)
- 12月7日(土)・・・第2回幹事会・冬のセミナー
- 1月15日(水)・・・第3回幹事会

今後の行事予定

- 2月9日(日)・・・くらしの空間セミナー
- 2月15日(土)~16日(日)・・・第23回保存問題長野大会
- 2月22日(土)・・・建築祭(文化講演会)
- 2月23日(日)・・・建築祭(長野県学生卒業設計コンクール)

編集 後記

JIA長野県クラブ会報は本号で100号を数えることになりました。四半世紀に渡る会の諸活動の記録がこの会報に編集され続けてきたことに敬意を表したいと思います。その一方で(編集に携わる者が言うのも無責任ですが…)、少しマンネリ感が否めないと感じるのは私だけでしょうか…。会報(建築家通信)が「面白い!」と言われるようにするにはどうしたら良いかと考えつつも、毎回バッチリと追われて悶々と一人相撲を取っている一担当者です……………下崎明久

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。

編集人/下崎明久 発行所/JIA長野県クラブ 長野市南長野野科426-1 長野県建築士会館内 TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303
発行人/川上恵一 URL <http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/> E-mail jia-naga@jeans.ocn.ne.jp